

# 本県におけるキャベツの生産販売状況について

園芸農産課

愛知県のキャベツは、作付面積及び、出荷量ともに全国トップクラスで一大生産地となっており、特に田原市や豊橋市など東三河の温暖な地域で栽培が盛んとなっています。今回は本県におけるキャベツの生産状況を報告します。



キャベツの栽培風景

## 1 本県のキャベツの作付面積等について

本県の 2024 年産キャベツの作付面積は 5,560ha で日本一です。また、出荷量では、11 月から 3 月にかけて出荷される「冬キャベツ」は、全国シェアの 3 割以上を占め、2023 年の産出額は 189 億円で、本県野菜の産出額の中でも第 1 位の品目です。

表 キャベツの主要生産県の状況

県名	作付面積 (ha)		出荷量 (t)		産出額 (億円)
		うち 冬キャベツ		うち 冬キャベツ	
<b>愛知</b>	① 5,560 (17.0%)	① 4,200 (29.0%)	② 209,000 (17.8%)	① 143,000 (32.2%)	② 189 (18.9%)
群馬	② 4,090	283	① 246,650	9,250	① 194
千葉	③ 2,647	② 1,350	③ 95,250	② 49,200	③ 79
全国	32,760	14,500	1,176,300	443,800	1,002

注：作付面積及び出荷量は 2024 年産(第 1 報)。産出額は 2023 年産。(出典：農林水産省)

○内の数字は全国順位。愛知県の欄の ( ) 内は全国シェア。

## 2 2024 年及び 2025 年のキャベツの生産販売状況について

2024 年産のキャベツは、単価が高騰し、全国的に話題となりました。

2024 年産の栽培概要として、育苗期の高温による生育不良や、相次ぐ台風の影響で計画どおりに定植が進まなかったこと、秋から冬にかけての雨不足と低温という悪条件が重なったことでキャベツの肥大が十分に進みませんでした。そのため出荷量が減少し、単価が高騰したと考えています。

2025 年産は前年の状況を踏まえて、産地では育苗期に遮熱資材を利用するなどの栽培環境の見直しに取り組んでいます。また、自動操舵トラクターなどスマート農業機械を積極的に導入するなど、高品質なキャベツの安定生産に向けた取組が進められました。

これらの取組により、2025 年産は計画どおりに定植作業が進みました。また、適度な降雨もあったことから、10 月以降のキャベツの肥大も順調であり、安定出荷が見込まれています。



図 近年のキャベツ出荷量と単価の推移

(J A あいち経済連取扱実績から作図)